論文題名（ゴチック体）

副題（ゴチック体）

著者氏名（ゴチック体）

Tani Kazuki（明朝体）

要旨

　要旨本文は明朝体。300〜400字以内。

キーワード：学級経営、特別支援、ICT教材（明朝体、３～４語程度）

Ⅰ．体裁

１．基本の書式

書式はＡ４判・縦置き・横書きとし、40字×40行の1段組とする。余白は、上下左右とも30ミリとする。

文字の大きさは原則10.5ポイントとする。見出しはゴチック体、本文は明朝体とする。

本文は、書き出しおよび改行後の書き出し部分を１字空ける。その他はすべて左端から書きはじめる。

２．題名、著者氏名など

　論文のはじめに、題名をつける。副題がある場合は、題名の下につけることとする。副題の前後に「－（ダッシュ）」や「〜（波ダッシュ）」はつけない。

次に、１行あけて、著者氏名およびローマ字での著者氏名を記入する。姓の後と名の頭文字との間は半角のスペースを入れる。

著者が複数いる場合は、著者名の右に併記する。ただし、３名以上の場合は、筆頭著者「ほか○名」と略してもよい。

題名、副題と著者氏名は中央ぞろえにする。

　著者氏名のあとに、論文の要旨を300〜400字以内で記す。最後に、３〜４つのキーワードを示す。

３．区切りと見出し

本文は、章、節、項などに区切り、見出しをつける。章の見出しにはⅠ．Ⅱ．Ⅲ．…、節の見出しには１．２．３．…の見出し番号をつけ、行の左に書く。章、節の見出しのフォントはゴチック体とする。項やそれ以上に細分化する場合のフォントは明朝体とし、表記法については著者に委ねる。① やア．などを用いてもよい。以下は例である。

Ⅰ．章名（ゴチック体、左づめ）

1. 節名（ゴチック体、左づめ）

①項名（明朝体、著者に委ねる）

章の前は１行あける。節、項、文献、注、図、写真の前後では１行あけてもよいが、本文の途中では行をあけない。

また、以下のように、文字や文を囲みで表すなどの装飾は用いない。

　このような装飾は用いない。

４．フォント

フォントは明朝体（英文はCentury）を標準とし、ゴチック体（英文は**Arial**）の指定のあるところはゴチック体を用いる。本文中では、これらのフォント以外は用いないこととする。ただし、写真・図版中においては、この限りではない。

1桁の数字は全角文字を用い、２桁以上は半角文字を用いる。

アルファベットは基本的に半角文字とする。略号等は全角文字を用いてもよい。

カタカナは全角文字を用いる。

Ⅱ．文体および用語

文章は、口語体の「…である」調とする。学術用語以外は常用漢字ならびに現代かなづかいを用いる。読点は「、」とし、句点は「。」を用いる。ただし、数式、英文などの部分はこれに該当しない。

（　）は全角を使用する。数字は、原則として算用数字を使用する。

ローマ字は、ヘボン式ローマ字表記を用いる。ただし、引用の場合や英文の場合は、もとの表記を優先する。

なお、固有名詞以外の外国語はできるだけ訳語を用いる。必要な場合に限り、初出のところに原綴りを括弧書きで記入する。

Ⅲ．図、表について

図、表、写真の番号は、それぞれ、図１、図２、…、表１、表２、…、写真１、写真２、…と連番をつけ、ゴチック体によるタイトルをつける。タイトルの位置は、表は上、図・写真は下につけることを基本とする。以下は例である。

表1.タイトル（ゴチック体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |



図1.タイトル（ゴチック体）

Ⅳ.文献について

文献は、「参考文献」と「引用文献」の区別はせず、一括して「文献」として扱う。

文献に関する情報（記載事項）は、論文末尾に掲載する。

１．文献の本文中における記載形式

　引用文献から本文において引用した箇所は「　」つきで示し、引用部分を明確にする。以下、①②いずれかの方法とする。

①「　」の前後に著者名と発行年度を記述する。

例　向山（1986）によれば「特別支援教育における・・・・は・・・・である。」

著者名・年度が同一の場合は、文献番号を用いるなどして文献を特定させる。

②「　」のあとに（＊文献１）と論文末尾の文献番号を記述する。

例　「特別支援教育における・・・・は・・・・である。」（＊文献１）

上記のように示したうえで、番号と論文末尾の番号を一致させる。

　その他、書式は本文と同様にする。

２．論文末尾の文献の記載事項

論文、単行本、編著本の場合、それぞれの記載事項は次のとおりである。

論文の場合は、

１　著者（発行西暦年）:論文題目、誌名、巻、号、始ページ〜終ページ

単行本の場合は、

２　著者（発行西暦年）:書名、始ページ〜終ページ、発行所名

編著本の場合は、

３　著者（発行西暦年）:題名、編者名編「書名」、始ページ〜終ページ、発行所名

とする。

発行所名の株式会社や出版などは省略してもよい。（例：明治図書出版→明治図書）

和文著者は、姓と名を表記する。欧文著者は、姓を記載後、名の頭文字を表記する。姓の後と名の頭文字との間は半角のスペースを入れる。なお、著者が複数の場合は併記し、３名以上の場合は筆頭著者「ほか○名」（欧文著者の場合は et al.）と略してもよい。

また、Webサイトについては、

４　著者名：Webページのタイトル、Webサイトの名称、更新日付、URL、(最終閲覧日)

とする。

英文論文や英文書籍、翻訳本の場合は、以下の文献記載例に則る。ジャーナル名等に斜体を使用してもよい。

以下は文献記載例である（６はWeb、７は英文論文、８は英文書籍、９は翻訳本）。

文献

１　飯田隆一、大谷忠（2017）：技術科教育における木材の表面処理技術の研究成果を取り入れた指導内容の検討、科学教育研究、41（４）、464〜473

２　松本修（2015）:文学の読みにおける比喩と象徴の意味、Groupe Bricolage紀要、1〜7

３　文部科学省（2018）:小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編、日本文教出版

４　大髙泉（2017）:理科教育事象の特質と理科教育研究の問題設定、大髙泉編「理科教育基礎論研究」、2〜21、協同出版

５　岡本義治、ほか4名（2015）:視覚認知機能に難しさのある肢体不自由児の算数・数学科の指導～視覚特別支援学校から整理した指導方針の検証Ⅰ、筑波大学特別支援教育研究、9、9〜20

６　中央教育審議会（2021）: 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」、文部科学省、2021-04-22、https://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\_00002.htm、（参照2022-08-22）

７　Zimmerman, B. J., & Kitsantas, A. (1997).Developmental Phases in Self-Regulation: Shifting from Process Goals to Outcome Goals. Journal of Educational Psychology, 89, 1, 29-36.

８　Zimmerman, B. J. (2000). Attaining self-regulation : a social cognitive perspective. In M. Boekaerts, P. R. Pintrich, & M, Zeider. (Eds). Handbook of self-regulation. (pp.13-39) San Diego, Calif: Academic Press.

９　Zimmerman, B. J., Bonner, S., & Kovach, R. (1996). Developing self-regulated learners: Beyond achievement to self-efficacy. American Psychological Association. (ジマーマン, B. J., ボナー, S., & コーバック, R.　塚野州一、牧野美知子 (共訳) （2008)：自己調整学習の指導、6～11、北大路書房)

Ⅴ.注・付録について

１．注について

本文中に注をつける場合は、該当箇所①のように、右肩に①などの上付き番号をつけ、章や節の末尾に番号と対応させたうえでまとめて記載する。以下は、末尾に注を記載する場合の例である。

注

1. 学習科学に関する研究動向とは、……を指す。
2. 学習とは、……である。

２．付録について

本文中に挿入するには分量が多く、かつ論文の理解のために必要な調査問題等は、付録として最末尾に記載する。ただし、本文との釣り合いを考えて、付録が多くならないように配慮する。

映像や音声の付録も可とする。